

広島大学法科大学院

小論文試験

2025年11月8日(土)

10:00~11:30

注意事項

- 1 ページ数は、表紙を除いて、7ページです。
- 2 解答用紙は3枚、下書用紙は3枚です。問いごとに解答用紙があります。解答用紙の記載を確認し、所定の解答用紙を使用してください。
- 3 解答は所定の解答用紙に横書きで書いてください。罫線外、マス枠外及び裏面を使用してはいけません。なお、使用する筆記用具の指定はありません。
- 4 解答用紙の所定の箇所には、受験番号のみを記入してください。氏名を書いてはいけません。
- 5 配布した解答用紙は持ち出してはいけません。
- 6 試験時間の途中で退室することはできません。
- 7 試験終了後、問題冊子及び下書用紙は持ち帰ってください。

【問題】

以下の文章は、家族や契約をどのように規制すべきかについて述べたある著書からの抜粋である。この文章を読んで、次の問いに答えなさい。出題に際して、一部省略・変更した箇所がある。

なお、以下の本文で登場する正義原理とは、以下の二原理から構成される。第一原理は、基本的自由の平等原理であり、各人は、他のすべての人と同じく、最も広範な基本的自由を平等に享受する権利を持つとする（言論の自由、信教の自由、選挙権など）。第二原理は、社会的・経済的不平等の容認条件であり、社会的・経済的不平等は、以下の二条件を満たす場合にのみ許容される。すなわち、①最も不遇な人々にとって最大の利益となる場合（格差原理）、②すべての人が、社会的地位や職業にアクセスする機会を平等に持つこと（公正な機会均等原理）。第一原理は第二原理に常に優先する。

また、背景的正義とは、社会の基本的な制度や仕組みにおいて時間とともに生じる不平等や不公正を是正し、公正な機会と分配の条件を維持し続けることを要求する原理原則を指す。

第1問（50点）

「広い見解」（下線(a)）と「（基本構造についての）狭い見解」（下線(b)）の内容をそれぞれ明らかにした上で、ロールズの見解がいずれかに該当すると解釈する際の困難性について、400字以上600字以内で論じなさい（句読点も1字と数えるものとする）。

第2問（50点）

「理想的歴史プロセス説」（下線(c)）と「理想的社会プロセス説」（下線(d)）とは何か、また、ロールズが後者の立場をとるのはなぜか、400字以上600字以内で説明しなさい（句読点も1字と数えるものとする）。

第3問（50点）

「構造的不正義の犠牲者であるサンディ」（下線(e)）の意義を説明した上で、今後こうしたサンディのような者を生まないための社会的・経済的格差是正を目的としたあなたの考える政策例をロールズの戦略も参考にしつつ挙げなさい。